

と言うのです。サヨナラと言うのさためらうこの心優しい人々が地上戦に巻き込まれて、どんな思いだったのか悲しくなりました。

今の沖縄は、戦争の爪痕もなく、人々は明るく自然豊かににぎやかな街なみです。私も沖縄の大地や人々のように色々な出来事に負けずに強く強く前を向いて歩いて行きたいと思えました。一緒に行つて下さった引率の皆さん、ありがとうございます。忘れられない体験になりました。そして、来年も再来年も同じ体験を後輩達にもさせてあげてほしいと思います。

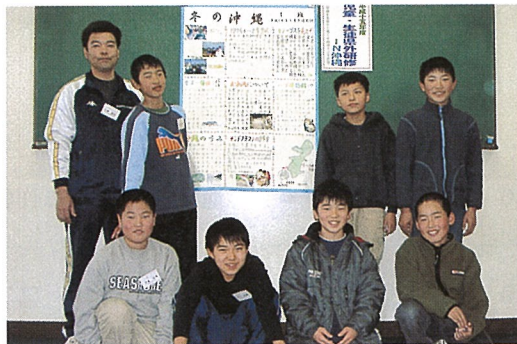


## 沖縄研修に参加して

大総小6年 萩原 岳志

僕は、今回の県外研修で沖縄のすばらしさや環境の違いを学び体験しました。特に、トカシクビーチでの海洋研修で、千葉県では見られないさごや色とりどりの魚なども見られたので、沖縄は、とても自然が豊かで平和なところだと思えました。

けれども、平和学習で渡嘉敷出身の座間味昌茂先生から沖縄・渡嘉敷島の歴史について教えてもらい、沖縄にとっても悲惨な歴史があったことを知り大変おどろきました。理由は、「沖縄は、日本でただ一つの戦場となったところ。」だとは知っていましたが、1945年3月に約20万人ものアメリカ軍が沖縄を激しくこうげきしてその戦いに一般の市民や、今の中学生や高校生位の人達までが戦場になり出



されたと聞いたからです。さらに、県民60万人のうち12万人以上の人がなくなつたと聞いて戦争はとても悲惨なものだと思えました。

僕は、今回の県外研修で沖縄の歴史や自然などを目で見て実感することが出来ました。だからこの体験を忘れることなく、これからの活動に役立てていきたいと思えます。

